

大和インベストメントコンファレンス東京 2010

## 投資家からの最近の主なご質問

---

株式会社 三井住友フィナンシャルグループ  
取締役社長 北山 禎介

2010年3月10日

- Q1. 2010年1月に発表した、一連の資本政策の背景・考え方について教えてください。追加増資の可能性は。
- Q2. 日興コーディアル証券を通じた証券戦略について教えてください。
- Q3. 海外における成長戦略について教えてください。
- Q4. コンシューマーファイナンス事業に対する考え方を教えてください。
- Q5. 09年度第3四半期(累計)業績の概要について教えてください。
- Q6. SMFGの強みは何ですか。

**Q1. 2010年1月に発表した、一連の資本政策の背景・考え方について教えてください。追加増資の可能性は。**

**A1. 新たな規制・競争環境下においても持続的成長を実現できる体制を逸早く構築すべく、1-2月に、普通株増資、海外資本性証券の買戻し、並びにGS宛優先株の転換を完了し、資本基盤を質・量ともに強化いたしました。今後は、事業ポートフォリオの強化と、保有株式の圧縮等の施策を進め、3年後の2013年3月期には、連結Tier I比率で10%程度、中期的には、連結ROEで10%程度を目指してまいります。更なる増資については、連結Tier I比率目標達成の観点からは、行う必要はないと考えておりますが、インオーガニックな成長機会については、引き続き検討してまいります。**

# 1-1. 普通株増資を含めた当社戦略の背景

国際的な自己資本規制のフレームワークが明らかとなる中、新たな規制・競争環境においても持続的成長を実現できる体制を逸早く構築することと致しました。

## 新たな金融秩序

「バーゼル委員会  
銀行セクターの強靭性を強化する  
ための市中協議文書」

- 2010年末までに策定
- 2012年末までを目標に金融情勢が改善し景気回復が確実となった時点で段階的に実施

- 自己資本の質の強化

Tier I資本の主要な部分はコモン  
エクイティ(普通株式及び内部留保を  
中心とした資本)で構成することを  
明確化

- リスク捕捉の強化
- レバレッジ比率規制の導入
- プロシクリカリティの抑制
- 流動性規制の導入

グローバルな  
金融再編・  
ビジネスモデル  
の見直し

## 当社の戦略

強靭な資本基盤  
の構築

着実な成長を  
実現する  
事業ポートフォリオの  
構築

## 財務目標

連結  
Tier I 比率  
10%程度

連結ROE  
10%程度

## 1-2. SMFGの経営戦略

新たな金融秩序が形成される中、資本基盤と事業ポートフォリオの強化に取り組んでおります。

### 強靱な資本基盤の構築

- 普通株増資
- 優先出資証券・永久劣後債の買戻し／優先株式の普通株式転換
- 保有株式にかかる株価変動リスクの削減

### 強みに立脚した 着実な成長を実現する 事業ポートフォリオの 構築

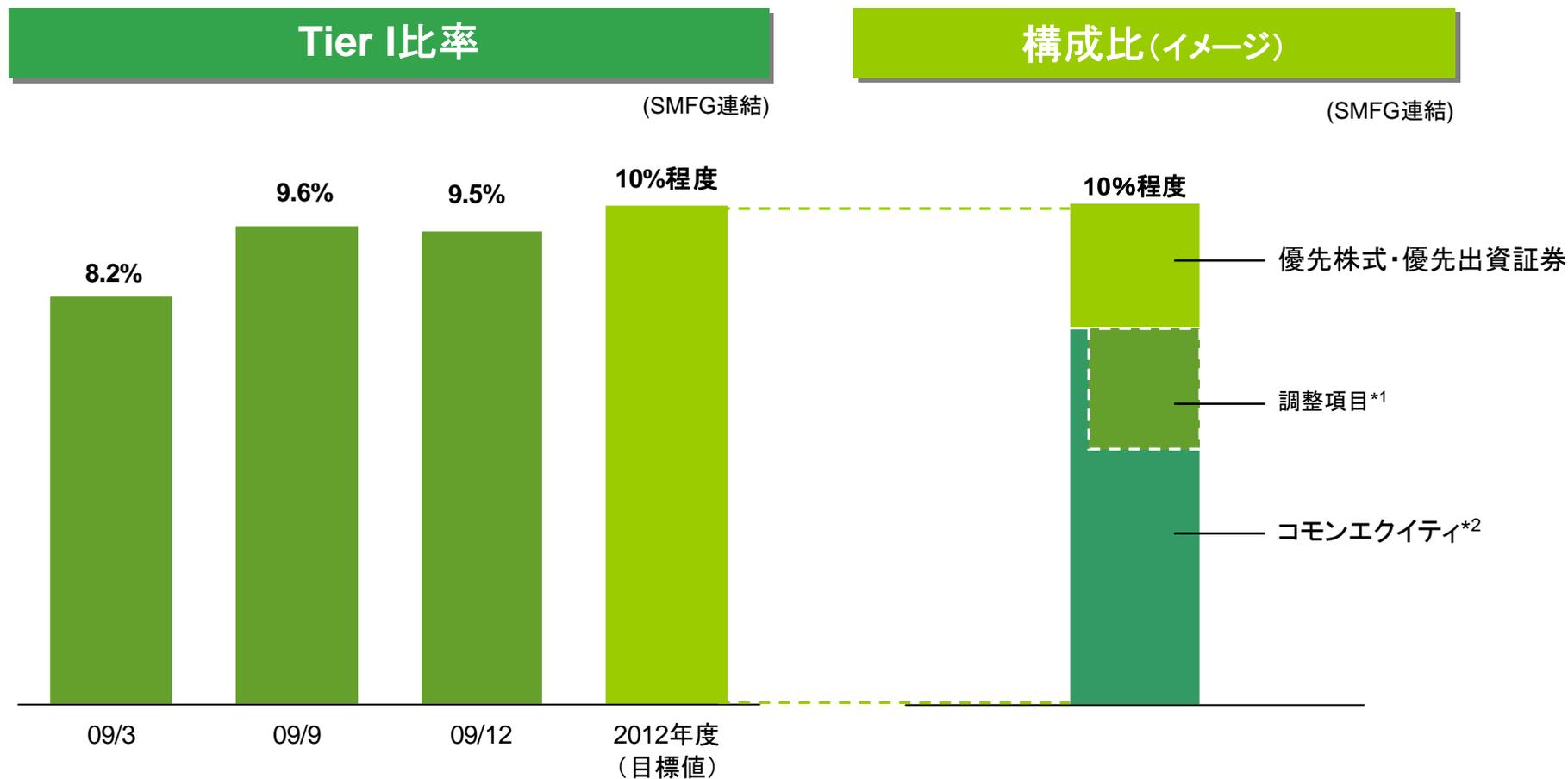
- 弊社の強み – 高い収益性・効率性と限定的なダウンサイドリスク
- リスクアセットのコントロール
- 日興コーディアル証券の強化
- アジアにおけるビジネスの強化

### 財務目標

- 連結Tier I比率: 10%程度
- 連結ROE: 10%程度

# 1-3. Tier I比率の目標

新規制導入の目標とされている2012年度において、10%程度の連結Tier I比率を確保することを目指してまいります。



\*1 バゼル委員会から提案されている、規制上の調整項目

\*2 バゼル委員会によって定義される、普通株式及び内部留保を中心とした資本

## (参考)資本

日興コーディアル証券連結化の影響はありましたが、着実な利益計上により、2009年12月末の連結Tier I比率は9.51%となりました。

(億円)	09/3月末	09/9月末	09/12月末
<b>Tier I</b>	<b>43,351</b>	<b>52,952</b>	<b>52,754</b>
ウチ 資本金・資本剰余金	14,781	23,435	
[ウチ優先株]	[3,102]	[3,102]	
ウチ 利益剰余金	12,240	12,968	
ウチ 海外特別目的会社の発行する優先出資証券	17,633	17,305	
ウチ その他有価証券の評価差損	▲146	-	
ウチ 為替換算調整勘定	▲1,291	▲861	
ウチ 適格引当金-EL(マイナスの場合)の50%相当額	▲176	▲471	
ウチ 証券化取引に伴い増加した自己資本相当額	▲421	▲401	
<b>Tier II</b>	<b>24,210</b>	<b>27,655</b>	<b>26,236</b>
その他有価証券含み益の45%相当額	-	3,076	
土地の再評価差額の45%相当額	372	372	
一般貸倒引当金	804	795	
永久劣後債務	7,626	6,762	
期限付劣後債務	15,408	16,650	
控除項目	▲7,082	▲7,792	▲4,801
BIS自己資本	60,478	72,815	74,189
リスクアセット	527,265	554,233	554,289
自己資本比率*	11.47%	13.13%	13.38%
Tier I 比率	8.22%	9.55%	9.51%

(参考)繰延税金資産純額	8,304	6,720	7,810
--------------	-------	-------	-------

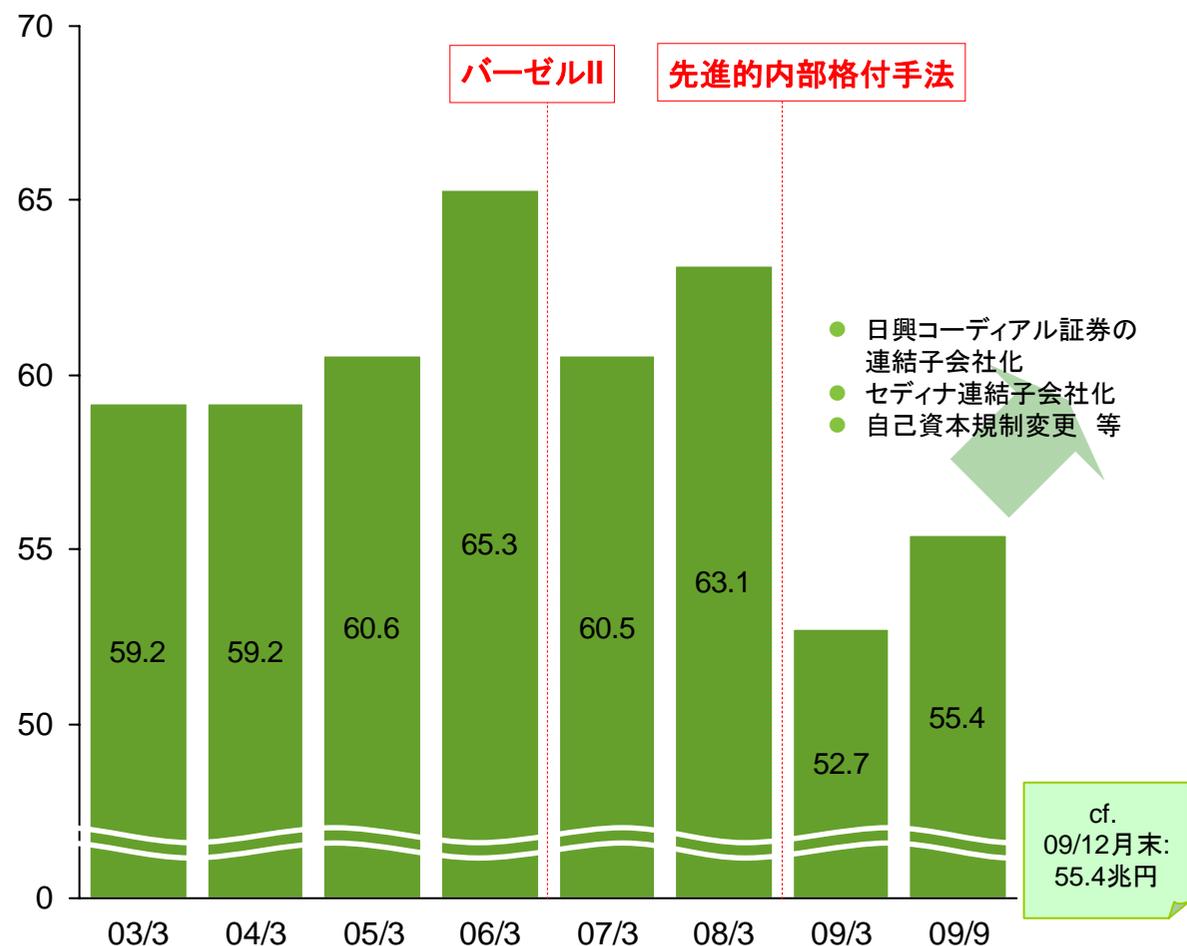
## 1-4. リスクアセットのコントロール

リスク管理手法の高度化に加えて、今後は、ビジネスモデルの転換を通じて低採算アセット圧縮を進め、リスクリターンを着実な改善を図ってまいります。

### リスクアセットの推移

(SMFG連結)

(兆円)



### 今後の取り組み

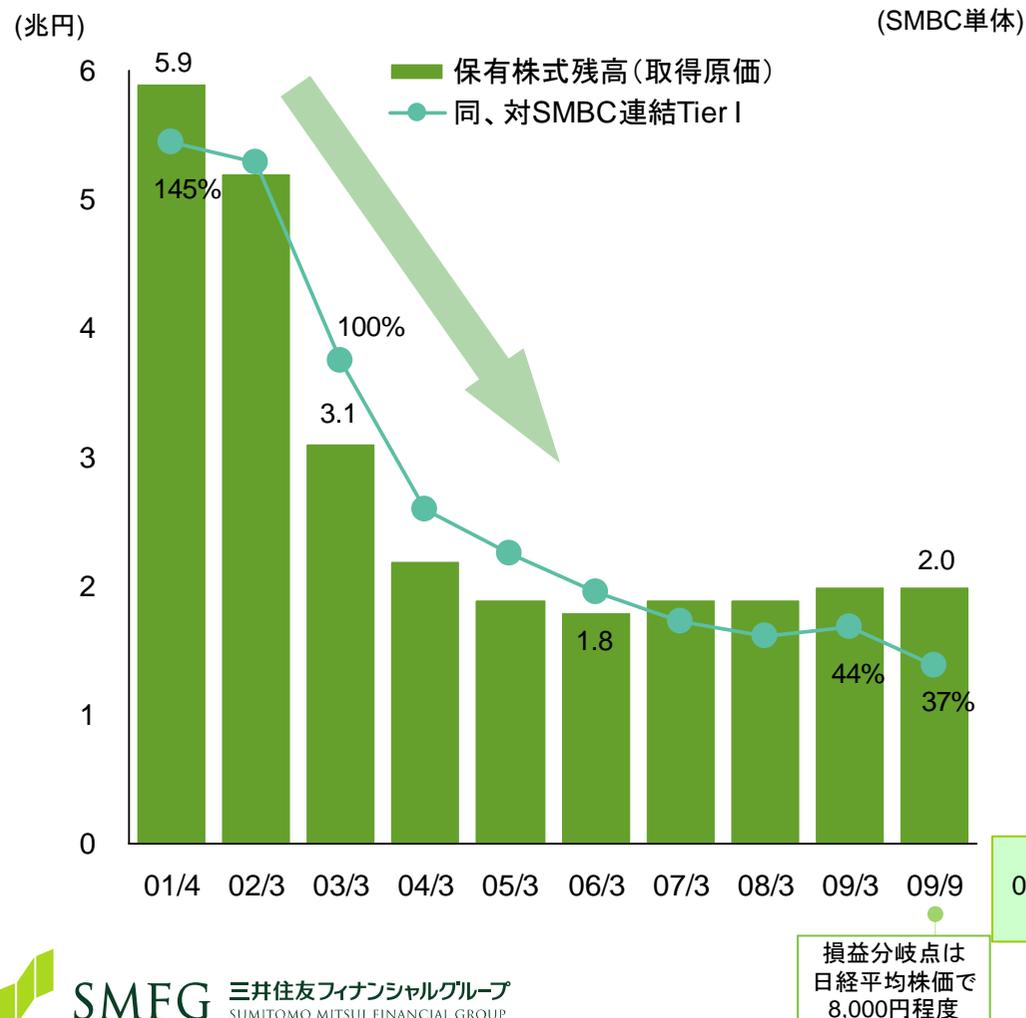
日興コーディアル証券の連結子会社化影響等を勘案した水準を概ね維持

- 低採算アセットの圧縮等
- 収益性の高いアセットへシフト
  - 既存ビジネスの更なる強化 (個人向け金融コンサルティング、法人向けソリューションビジネス、セディナ連結子会社化等)
  - 日興コーディアル証券強化 (ホールセール強化等)
  - アジア戦略強化

# 1-5. 政策保有株式の圧縮

株価変動リスクの資本への影響を低減してまいります。

## 保有株式残高の推移



## 今後の取り組み

### 外部環境の変化

- 自己資本規制強化の流れ
- IFRS導入

株価変動リスクの資本への影響を低減する必要性

政策保有株式残高のTier I資本に対する比率を25%程度に低減

- 売却・ヘッジ等により圧縮

**Q2. 日興コーディアル証券を通じた証券戦略について教えてください。**

**A2. 昨年10月に100%子会社化した日興コーディアル証券の立ち上がりは順調です。**

**当社グループとしましては、リテールに加えてホールセール証券事業の強化にも注力し、中期的には国内トップクラスの総合証券会社として最高水準のサービスを提供するべく、SMBCと日興コーディアル証券の連携を一層深めてまいります。**

## 2-1. 日興コーディアル証券：順調なスタート

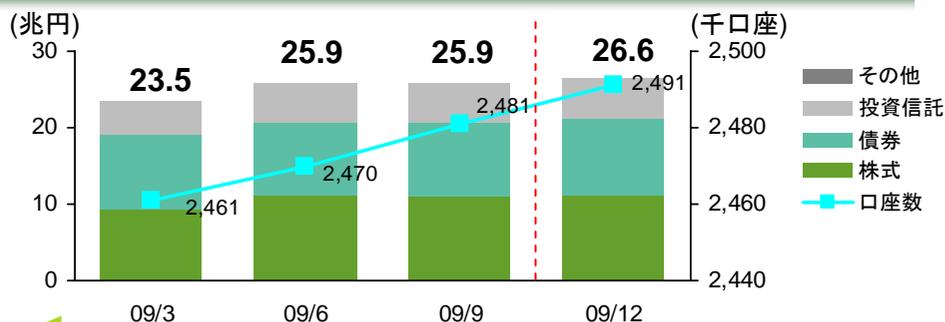
昨年10月に連結子会社化した日興コーディアル証券は、着実に実績を上げております。

### リテール営業網の強化（09/9月）



店舗数	500	+	109	=	609
営業員数	6,800	+	3,000	=	9,800
預かり資産	41兆円	+	26兆円	=	67兆円
取引口座数	2,600万	+	250万	=	2,850万

### 日興コーディアル証券の顧客基盤

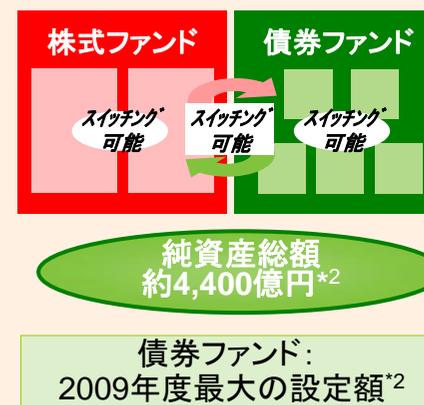


### 参考 日興コーディアル証券の実績\*1

(億円)	09年10-12月実績
純営業収益	453
うち 投信募集手数料	175
うち 引受手数料	50
経常利益	94
当期純利益	61

\*1 単体ベース。旧・日興と合算した09年4-12月の実績は、純営業収益1,297億円、経常利益307億円、当期純利益376億円

### SMBCとの共通取扱い投資信託



### 日本社債ブックランナーランキング (09年10-12月)

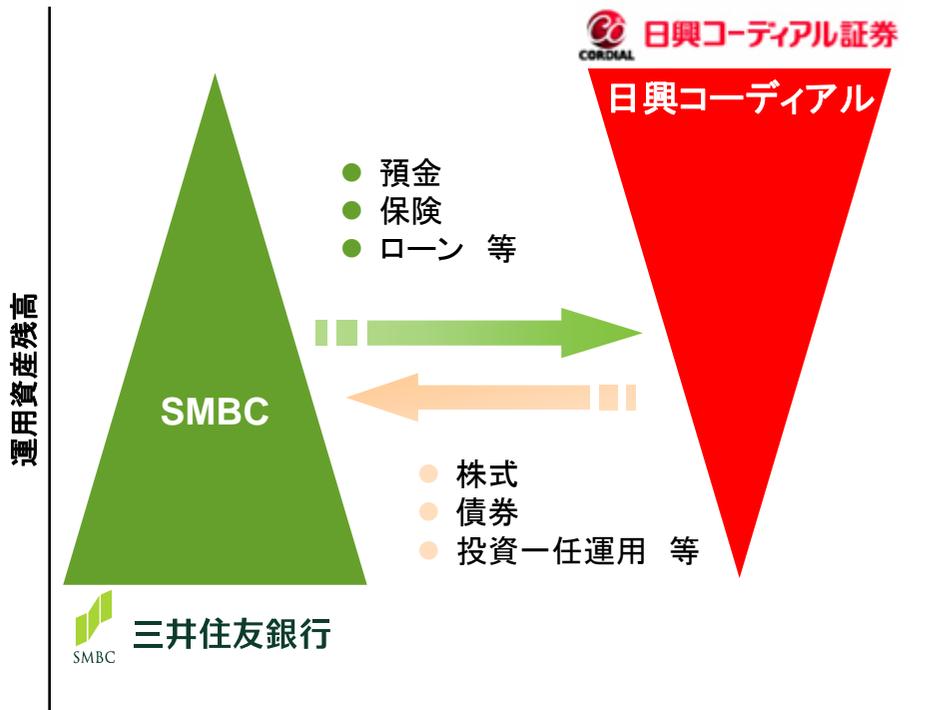


## 2-2. 日興コーディアル証券：戦略

グループ内のシナジーを最大化し、国内トップクラスの総合証券会社を目指してまいります。

### リテール証券事業

#### SMBCとの連携強化によるクロスセル推進



顧客数

#### ローコスト・オペレーションの維持

- IT等を活用した営業の生産性向上

### ホールセール証券事業

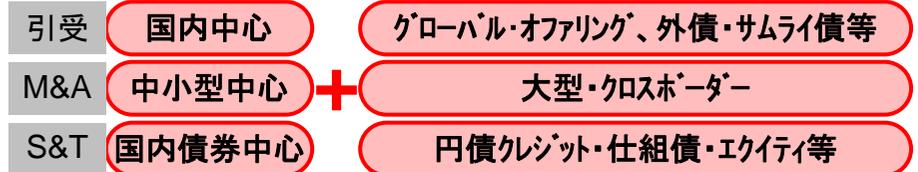
#### 国内トップクラスの顧客サービスレベルを早急に構築

#### 顧客基盤



日興コーディアル証券  
CORDIAL

#### 機能強化



三井住友銀行  
SMBC

- 信用力(格付)
- 人材
- 資金力
- リスク管理能力

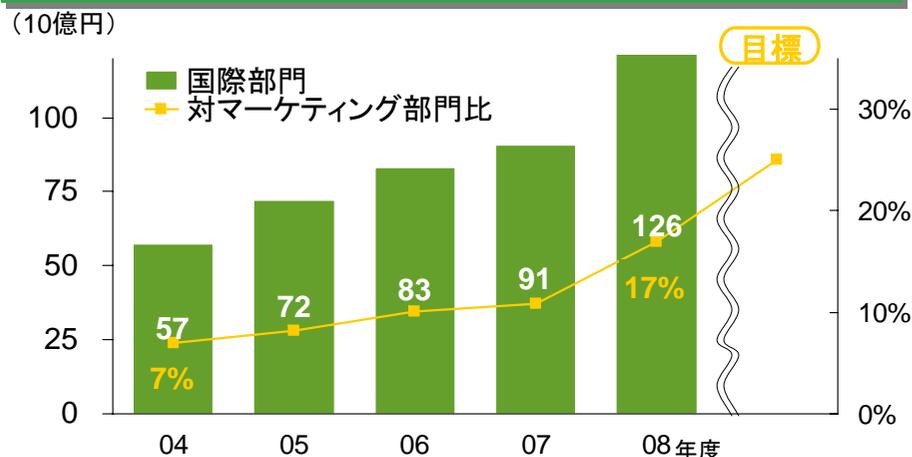
**Q3. 海外における成長戦略について教えてください。**

**A3. 高い成長が見込まれるアジアを軸に資源を投入し、地場有力金融機関との提携も活用しながら、SMBCのマーケティング部門の業務純益に占める国際部門の割合を、08年度の17%程度から、中長期的に引き上げてまいります。**

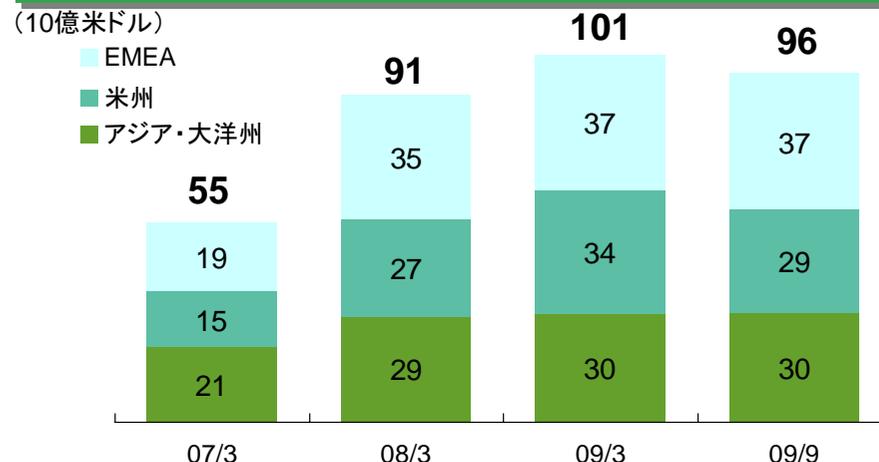
### 3-1. 海外におけるビジネスの強化：業務純益、残高の状況

SMBCのマーケティング部門の業務純益のうち、国際部門が占める割合は、08年度では17%程度です。高い成長率を有するアジアを軸に資源を投入することにより、中長期的に同比率を引き上げてまいります。

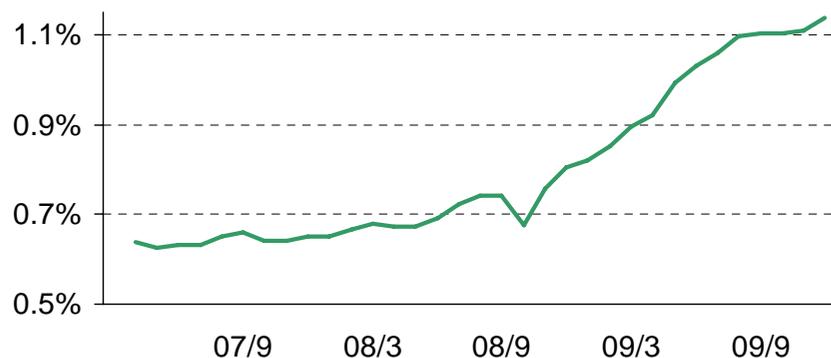
国際部門 業務純益推移\*1



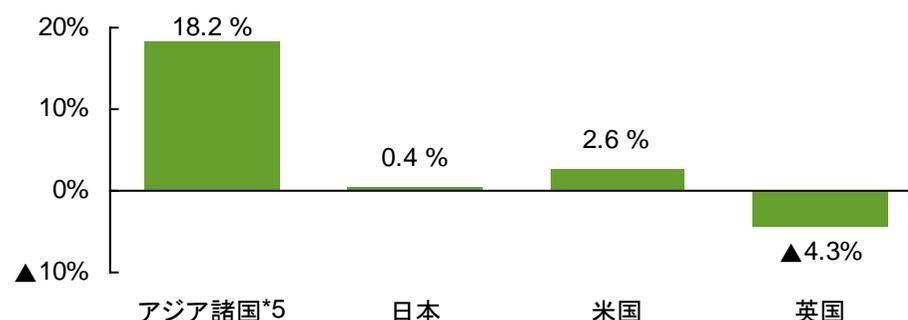
海外貸出残高推移\*2



海外貸出スプレッド (ストックベース)\*3



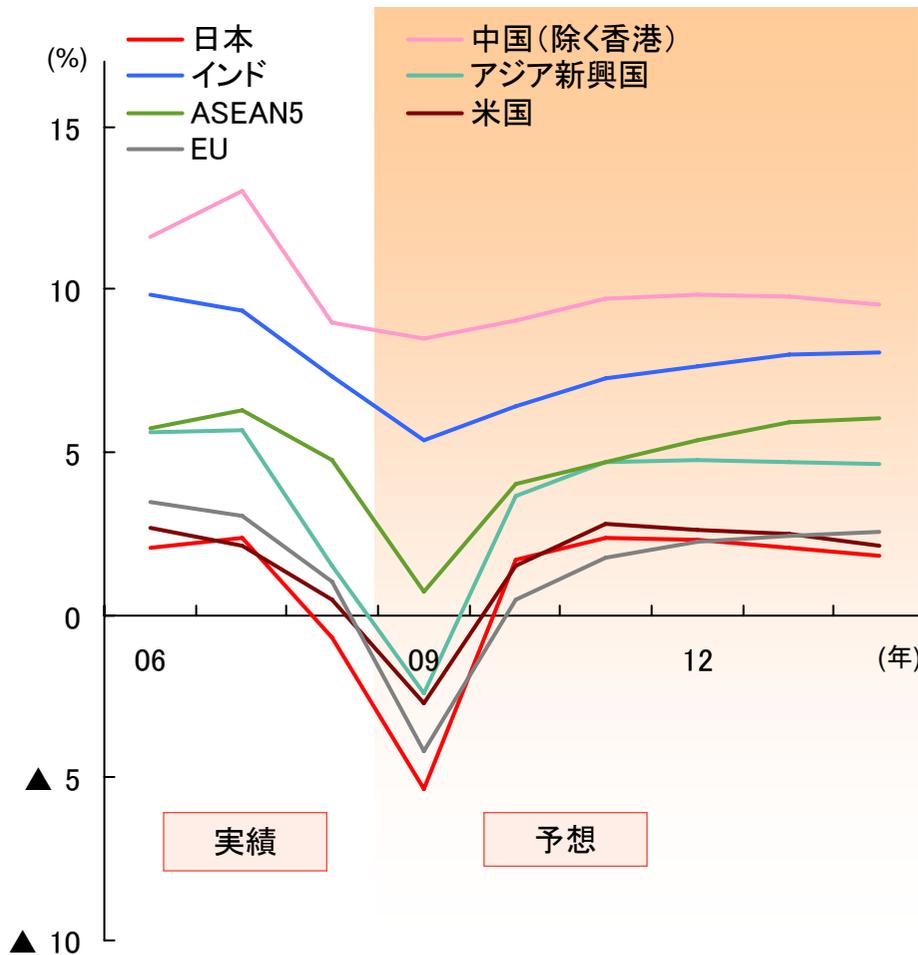
エコノミストによる地域別貸出金増減予想\*4



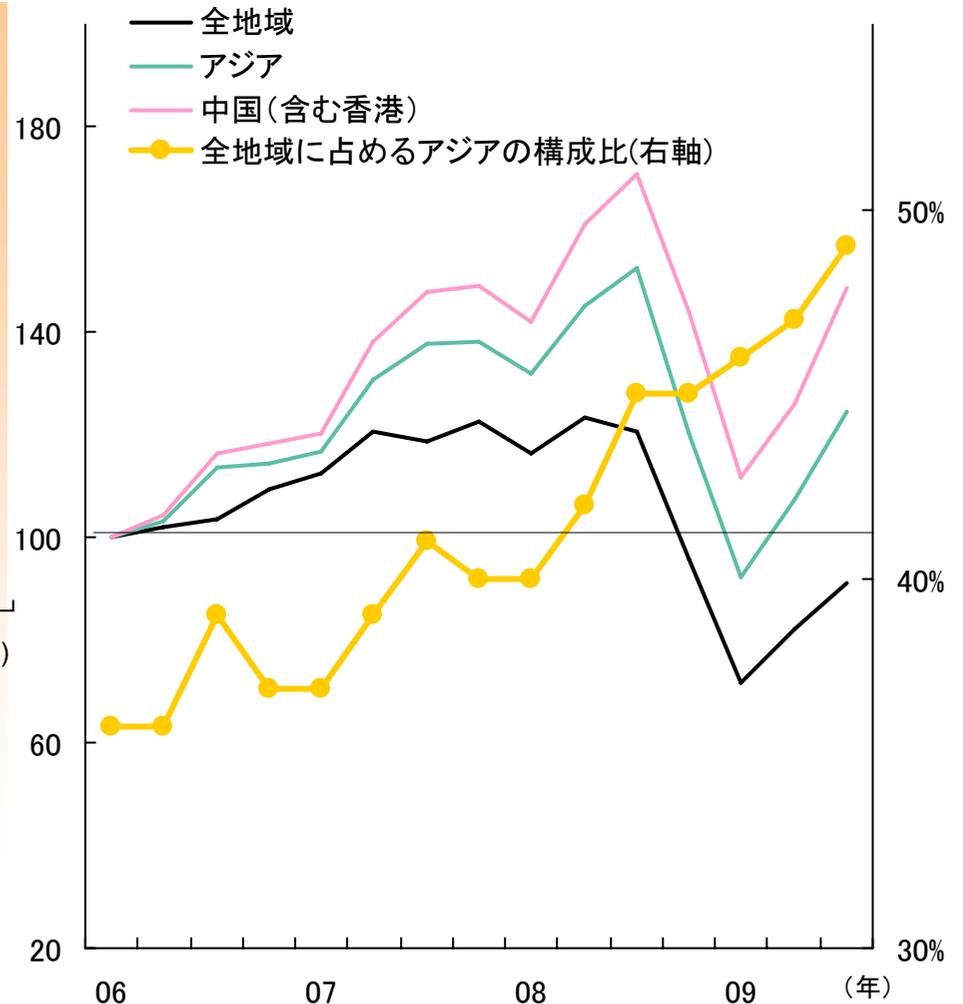
\*1 行内管理ベース。SMBC単体及び海外現法の合計  
 \*2 行内管理ベース(管理ベースの円建て数値を、全て米ドル建てであったものとして、各期末換算レートにて割戻して表記) SMBC単体、欧州三井住友銀行及び三井住友銀行(中国)の合計  
 \*3 行内管理ベース。SMBC単体、欧州三井住友銀行及び三井住友銀行(中国)の合計  
 \*4 2010年における増減予想。出所:「エコノミスト・インテリジェンス・ユニット」 \*5 アジア諸国は、中国、韓国、香港、シンガポール、タイの合計

# (参考) 世界のマクロ経済環境

世界各地域の実質GDP成長率\*1



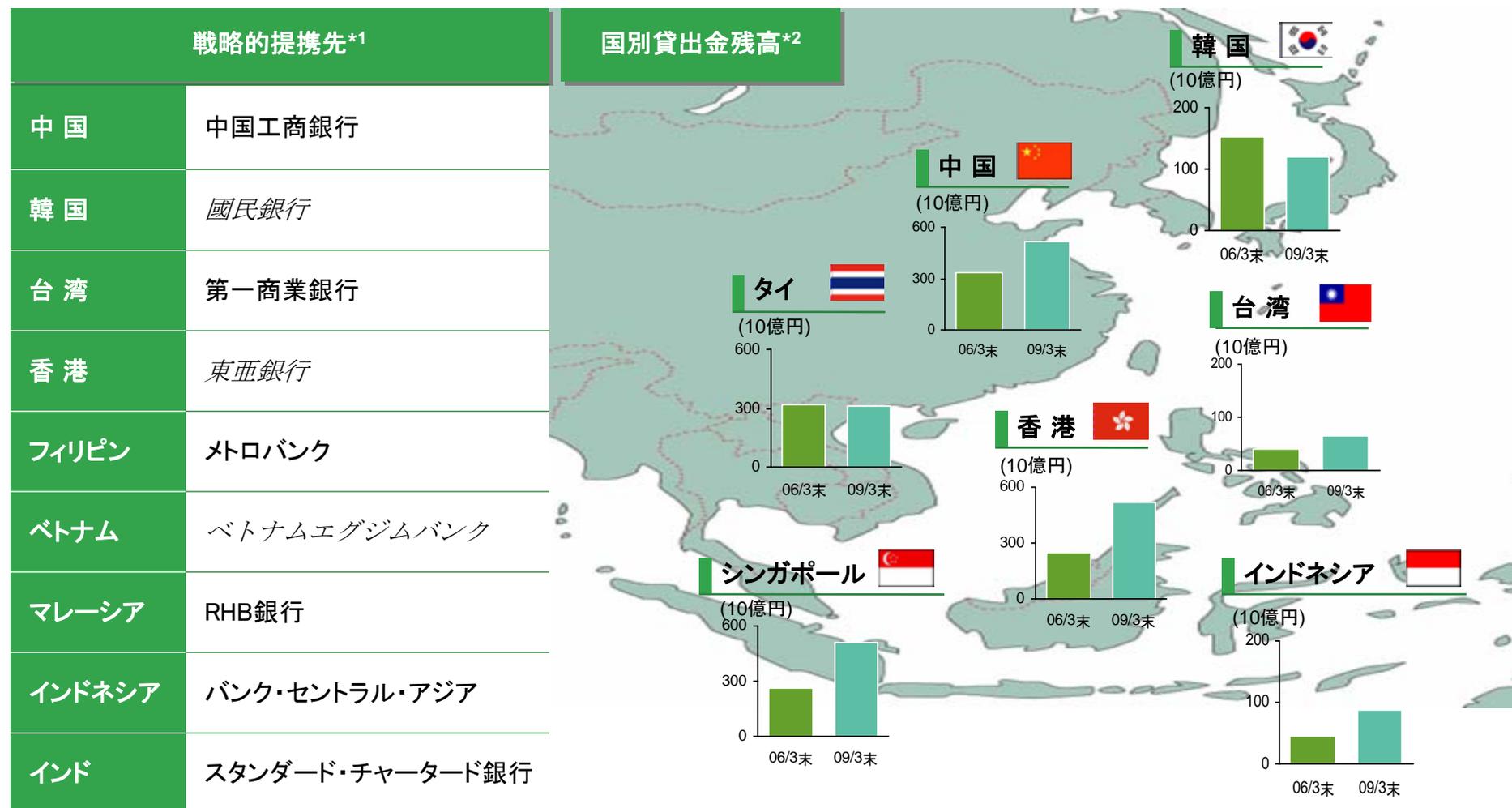
日本企業現地法人売上高\*2



\*1 出所: IMF「World Economic Outlook」。アジア新興国は、韓国、香港、台湾、シンガポール。ASEAN5は、インドネシア・タイ・フィリピン・マレーシア・ベトナム  
\*2 出所: 経済産業省「海外現地法人四半期調査」。06年1-3月の売上高を100として指数化したもの。アジアに含まれる国は、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、シンガポール、台湾、韓国、インド、ベトナム、スリランカ、パキスタン、バングラデシュ、ミャンマー、ラオス

## 3-2. アジアにおけるビジネスの強化：地域別特徴

グローバルに強みを持つプロダクツや地場の商業銀行との戦略的提携を梃子に、アジアの各地域におけるビジネスを一段と強化してまいります。



\*1 斜体はSMBCの出資先

\*2 棒グラフは貸出金残高(債務者所在国ベースの国別集計(拠点別ではない))。06/3末残高は、09/3末の期末為替仲値で為替を割戻して表記

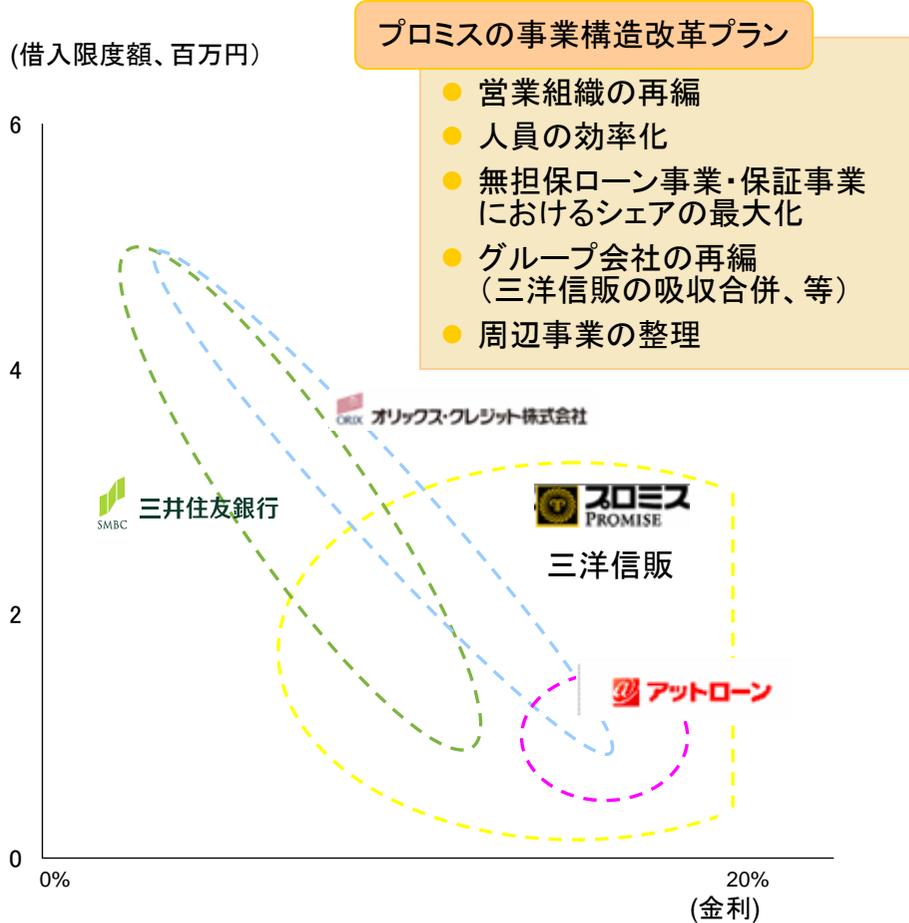
**Q4. コンシューマーファイナンス事業に対する考え方を教えてください。**

**A4. 総量規制や上限金利規制の導入に伴い、一定の市場規模縮小は見込まれますが、ミドルリスク・ミドルリターンマーケットにおける個人のお客さまの健全な借入ニーズは引き続き存在すると考えております。当社グループとしましては、各社が市場規模の縮小を先取りし、徹底した経費削減等による経営体質の強化をすすめ、市場を「面で捉える」ことで、コンシューマーファイナンス事業の中期的な発展を図ってまいります。**

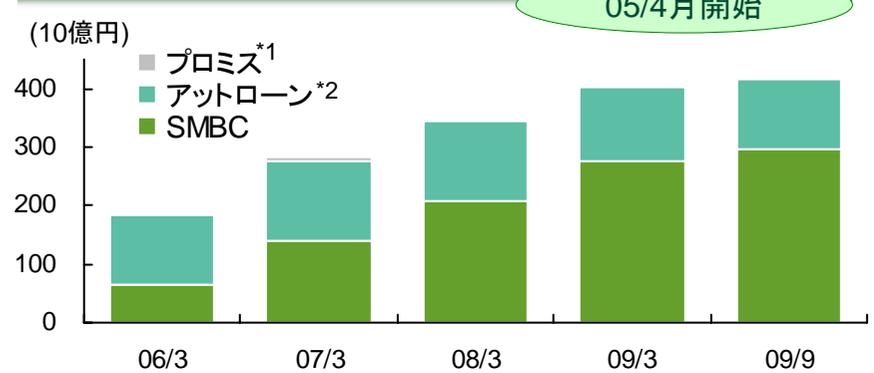
# 4-1. コンシューマーファイナンス事業

総量規制や上限金利規制の導入に伴い、一定の市場規模縮小は見込まれますが、  
 コンシューマー・ローンに対する健全な借入ニーズはなくなることはないと考えています。

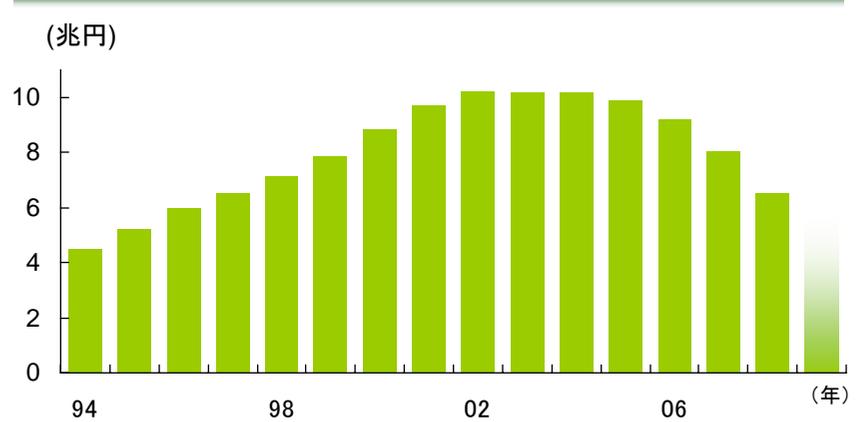
## SMFGにおけるコンシューマーファイナンス事業の概観(イメージ)



## プロミスとの協働事業(ローン残高)



## 消費者金融会社の供与する消費者ローン残高\*3



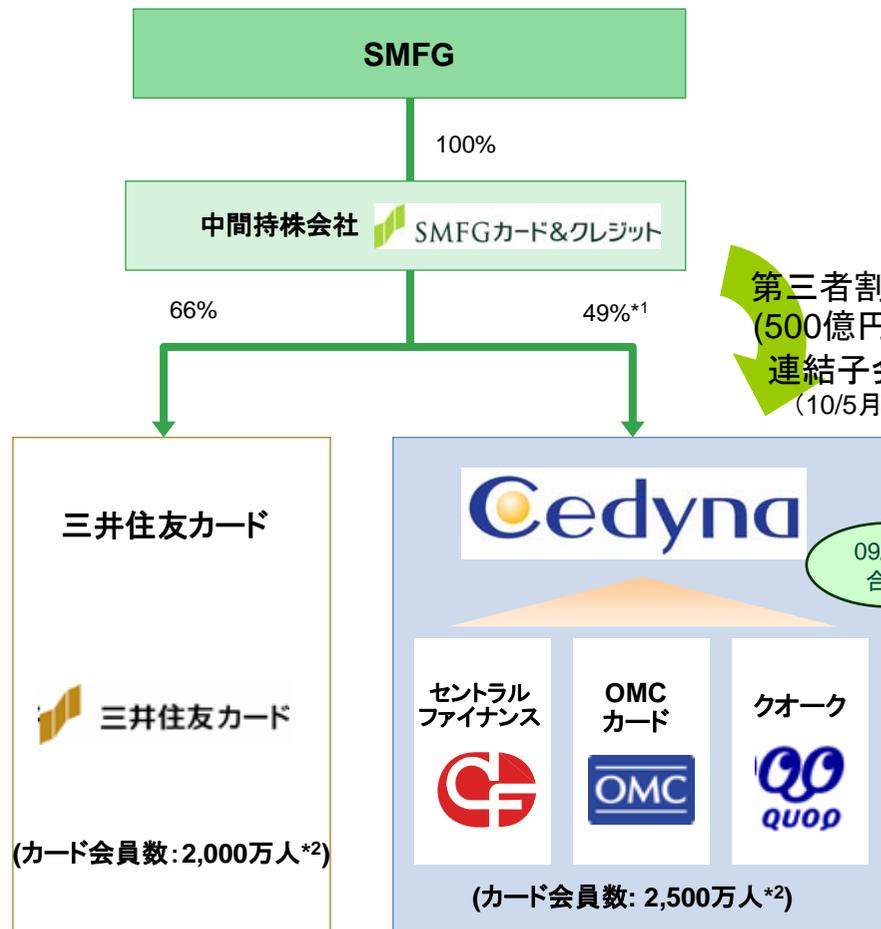
\*1 07/2月に新規貸出停止  
 \*2 提携開始以前の旧債権を含む  
 \*3 出所:日本の消費者信用統計(平成22年版)

## 4-2. クレジットカード事業

セディナの連結子会社化により(2010年5月予定)、グループ内の連携をより一層強化し、トップラインシナジーとスケールメリットの極大化を追求してまいります。

### クレジットカード事業推進体制

### セディナ連結子会社化の狙い



第三者割当増資  
(500億円)引受・  
連結子会社化  
(10/5月予定)

### Cedyne

- 経営構造変革の一段のスピードアップ
  - 新規事業(海外の金融事業展開を含む)への投資
  - システムへの投資
  - コスト構造変革 等
- クレジットカード事業における中核会社としての位置付けをより一層明確化
- 財務基盤強化

クレジットカード事業戦略の  
一層のスピードアップと着実な推進

- 【トップラインシナジー】
- SMBC 三井住友銀行 ● セディナの注カマーケットにおける協働 (ECマーケット・教育マーケット等)
  - 三井住友カード ● 提携先企業の相互紹介・共同キャンペーンの実施 等
- 【スケールメリットの極大化】
- 三井住友カード ● 次世代システムへの一本化/業務処理の統合

\*1 グループ合算での議決権比率。2010年5月の第三者割当増資引受により約68%に増加予定  
\*2 09/9月末現在

**Q5. 09年度第3四半期(累計)業績の概要について教えてください。**

**A5. 09年度第3四半期(累計)業績は、SMBC単体では、昨年度の政策金利引下げに伴う流動性預金収益等の減少や、経済状況の低迷等により外為関連収益等が減少したことを主因に、業務粗利益は減益となった一方、与信関係費用が減少したこと等から、当期純利益は増益となりました。SMFG連結当期純利益につきましても、前年同期比増益、通期予想比113%の進捗となりました。**

## 5-1. 2009年度 第3四半期業績

SMFG連結四半期純利益（累計）は、2,478億円と、前年同期比+1,644億円の増益、09年度通期予想対比では約113%の進捗となりました。

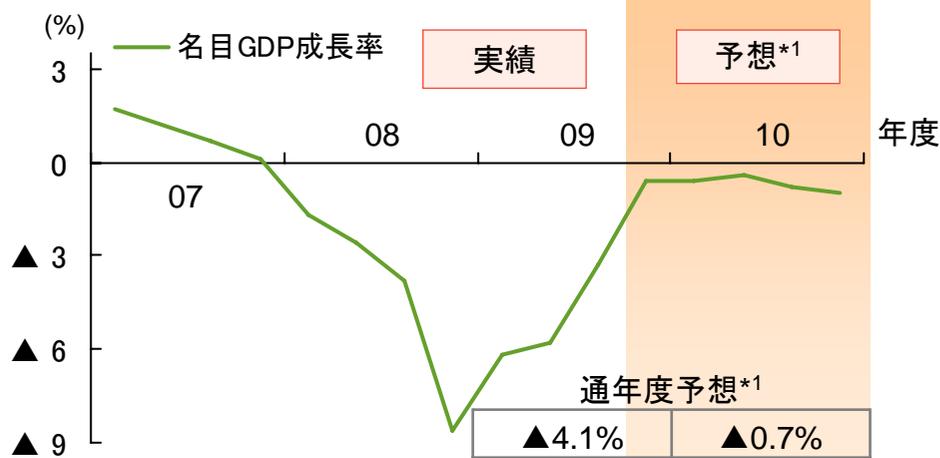
		09年度 修正予想 <期初予想> (a)	09年 4-12月 実績 (b)	前年 同期比	進捗率 (b)/(a)	
SMBC 単体	業務粗利益	14,450 <14,450>	10,740	▲782	74.3%	✓ 資金利益は増益となった一方、 トレーディング収益や外為・デリバティブ 関連収益が減少
	経費	▲6,950 <▲6,950>	▲5,135	△114	73.9%	
	経费率	48.1% <48.1%>	47.8%	△0.3%		✓ 経費削減への取組みを一段と強化
	業務純益*1	7,500 <7,500>	5,605	▲668	74.7%	✓ 政府の景気対策効果 ✓ 取引先の状況に応じたきめ細かな対応 に取り組んできた成果 ✓ 海外マーケットの状況改善、等
	与信関係費用	▲3,400 <▲3,800>	▲1,806	△960	53.1%	
	株式等損益		▲3	+1,063		
	経常利益	3,300 <3,100>	3,301	+1,070	100.0%	✓ 10月に完全子会社となった 日興コーディアル証券の寄与 ✓ 大和証券SMBCの損益が改善、等
	当期純利益／ 四半期純利益	2,000 <1,800>	2,499	+1,294	125.0%	
SMFG 連結	経常利益	4,900 <5,100>	4,480	+1,716	91.4%	<div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <b>連結業績予想</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営環境等、今後の動向を見極める必要があること等から、09年度通期業績予想 についての変更はございません。</li> </ul>
	当期純利益／ 四半期純利益	2,200 <2,200>	2,478	+1,644	112.6%	

\*1 一般貸倒引当金繰入前

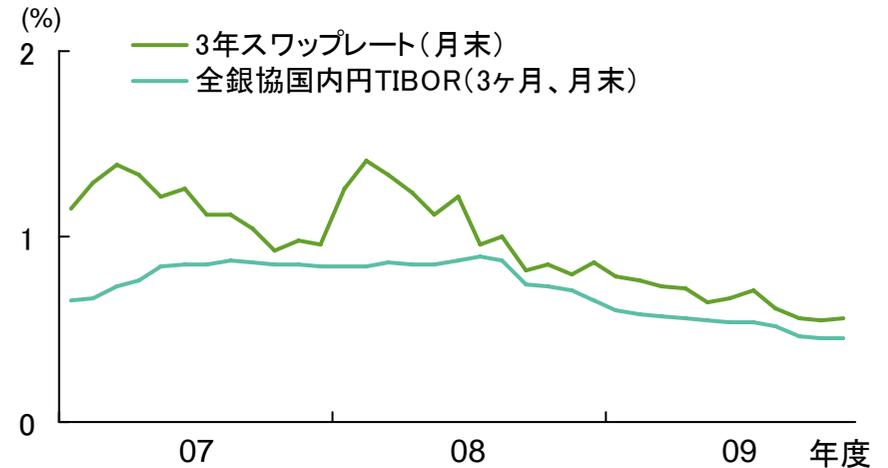
## 5-2. 国内マクロ環境

名目GDP成長率は、08年末をボトムに改善傾向にありますが、依然、経済環境は厳しい状況です。

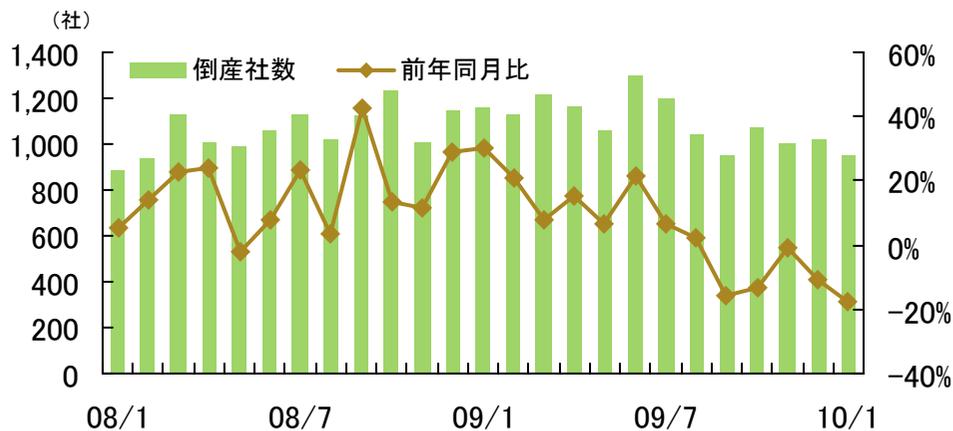
### 名目GDP成長率



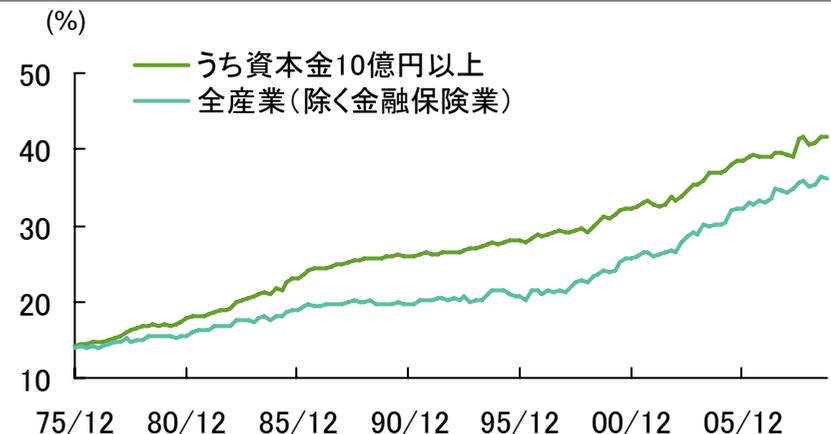
### 円金利の推移



### 全国企業倒産(社数)\*2



### 国内企業の自己資本比率の推移\*3



\*1 10/1月以降(及び通年度予想)は日本総合研究所の予測値(10年2月15日時点)

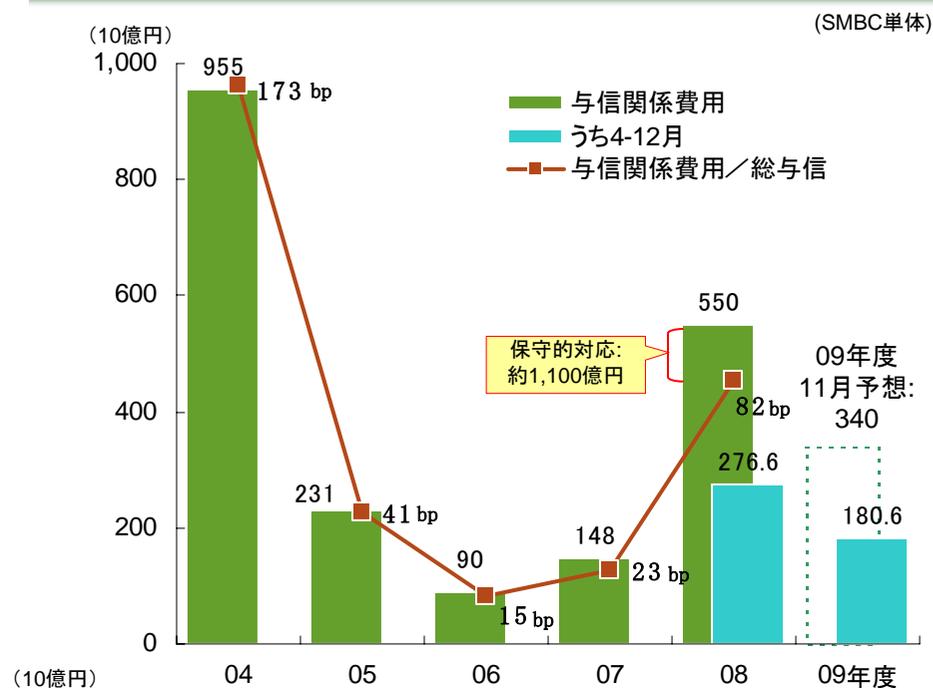
\*2 出所: 帝国データバンク「全国企業倒産集計」

\*3 出所: 財務省「法人企業統計」

## 5-3. 与信関係費用

信用保証協会による緊急保証等をはじめとする政府の景気対策の効果に加え、取引先に対するきめ細かい対応や、海外マーケットの状況改善等による劣化コスト抑制を主因に、09年度第3四半期（累計）の与信関係費用（SMBC単体）は、前年同期比では△960億円の減少、通期予想比では53%の進捗となりました。

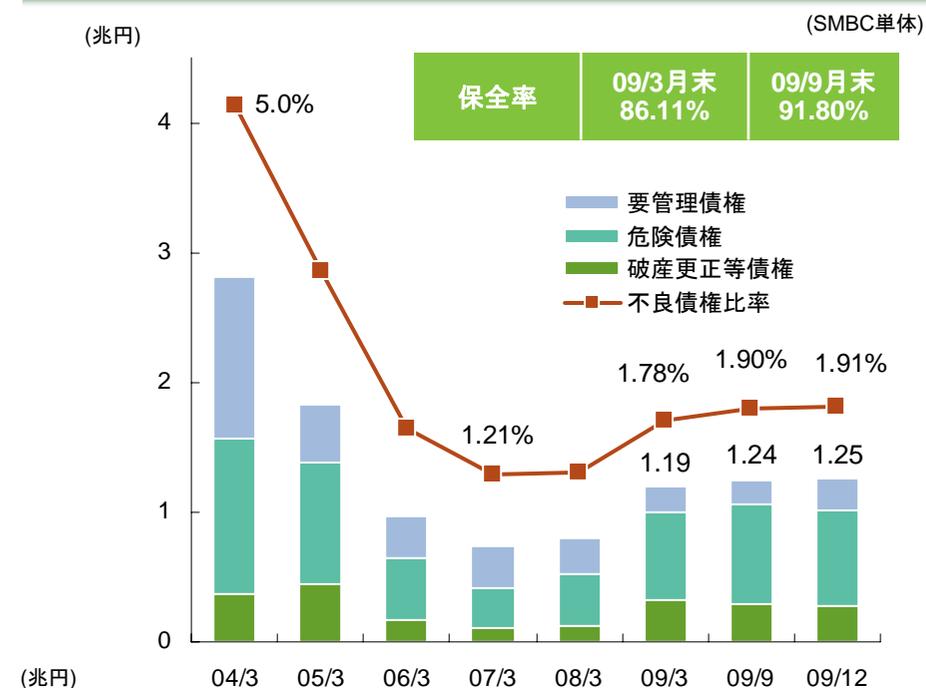
### 与信関係費用



与信関係費用 (SMFG連結)	04	05	06	07	08	09年度
	1,197	302	145	249	768	319.5
連単差	242	71	55	101	218	138.9
					399.4	

### 参考

### 不良債権残高



その他要注意先残高*	04/3	05/3	06/3	07/3	08/3	09/3	09/9	09/12
	4.3	2.4	2.2	2.4	2.6	3.7	3.6	3.6
総与信末残	56	55	57	61	65	67	65	66

\*除く要管理先債権

## 5-4. リスク管理態勢の高度化

リスクが多様化、複雑化していく中、網羅的なリスク管理態勢の構築とバーゼルⅡ対応を軸としたリスク計量化を推進しています。



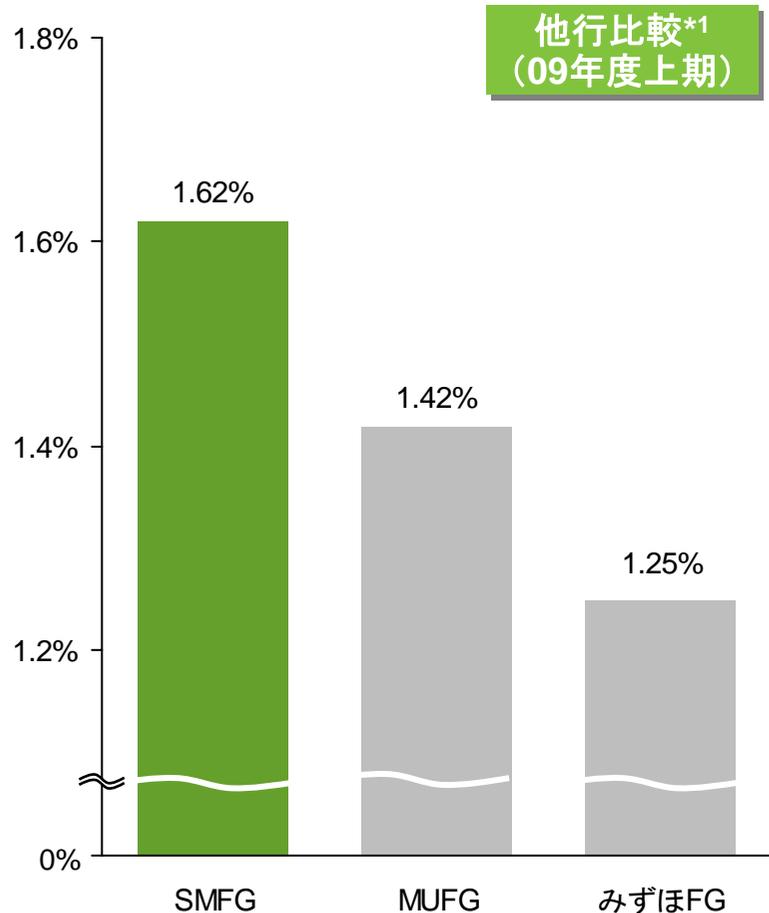
**Q6. SMFGの強みは何ですか。**

**A6. SMFGの強みの源泉は、「先進性」「スピード」「提案・解決力」です。  
これらが、中核事業である商業銀行業務における  
他社比高い収益性・効率性、限定的なダウンサイドリスク、  
強固な顧客基盤や預金基盤に結実しています。**

## 6-1. SMFGの強み：収益性

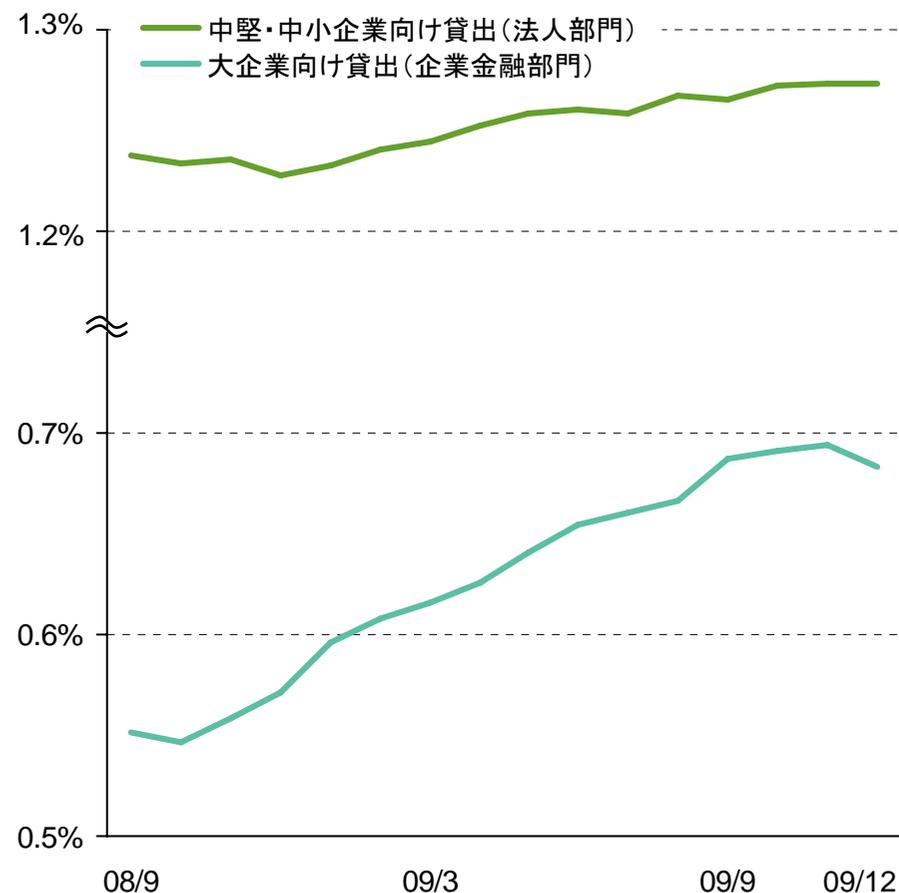
厳しい環境下ではありますが、当社の強みである相対的に高い収益性は維持されております。引続き貸出ポートフォリオのリスク・リターンの改善に注力してまいります。

### 国内預貸金利回り



### 参考

### 国内貸出利鞘(行内管理ベース)

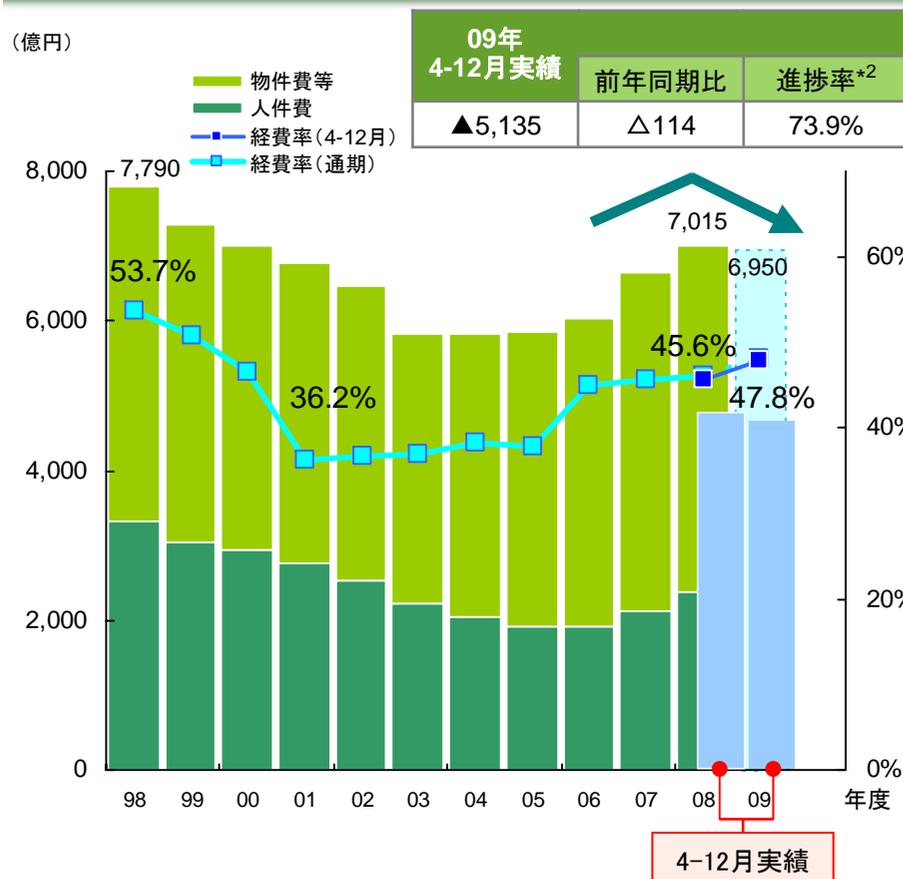


\*1 各社公表資料に基づく。三井住友フィナンシャルグループ(SMFG)は三井住友銀行単体、三菱UFJフィナンシャルグループ(MUFG)は三菱東京UFJ銀行単体、みずほフィナンシャルグループ(みずほFG)はみずほ銀行及びみずほコーポレート銀行の2行合算

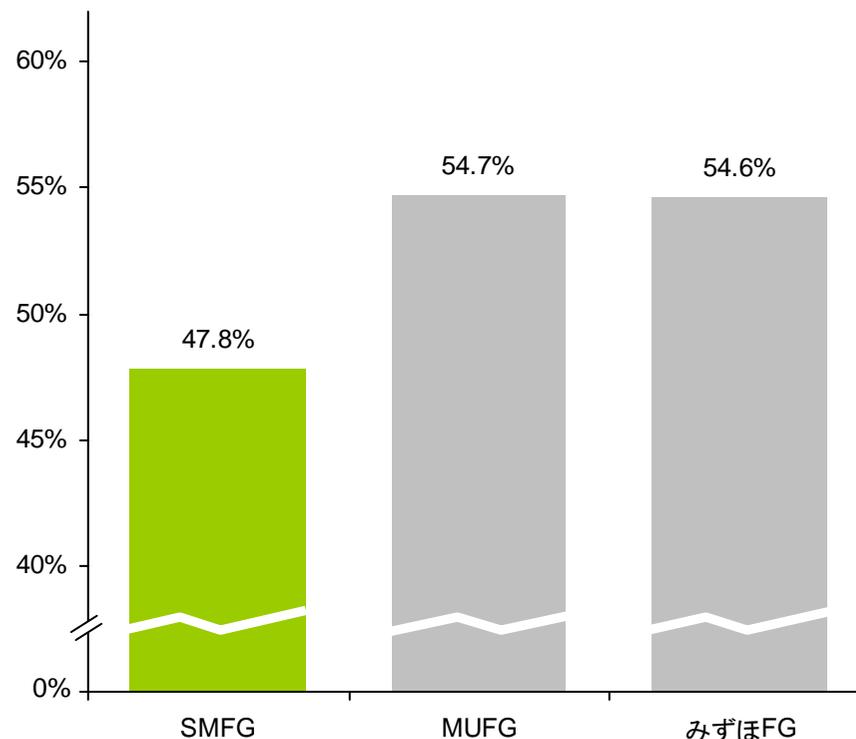
## 6-2. SMFGの強み：効率性

業務推進経費の削減やシステム・施設投資の抑制・内容見直しにより、09年度第3四半期（累計）のSMBC単体経費は、前年同期比△114億円削減の▲5,135億円、通期予想比では73.9%の進捗となりました。引続き経費率（SMBC単体）40%台を堅持してまいります。

### 経費の推移\*1



### 経費率 (09年4-12月、他行比較\*3)



\*1 00年度以前は、旧さくら銀行・旧住友銀行の合算  
\*2 進捗率=「09年度4-12月実績」/09年度通期予想

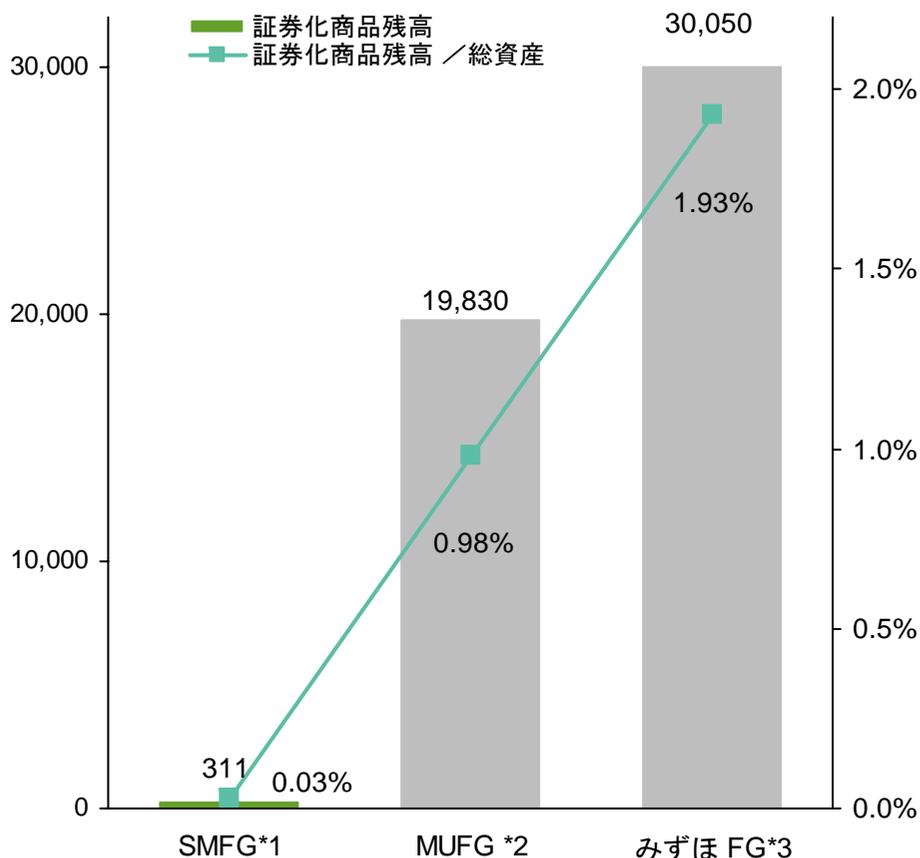
\*3 各社公表資料に基づく。三井住友フィナンシャルグループ(SMFG)は三井住友銀行単体、三菱UFJフィナンシャルグループ(MUFG)は三菱東京UFJ銀行単体、みずほフィナンシャルグループ(みずほFG)はみずほ銀行及びみずほコーポレート銀行の2行合算

## 6-3. SMFGの強み： 限定的なダウンサイドリスク

証券化商品等の残高は他社比極めて低い水準です。また、新規制の下でのマーケットリスクに関連する所要自己資本の増加額も、欧米の大手金融機関と比べて極めて限定的とみております。

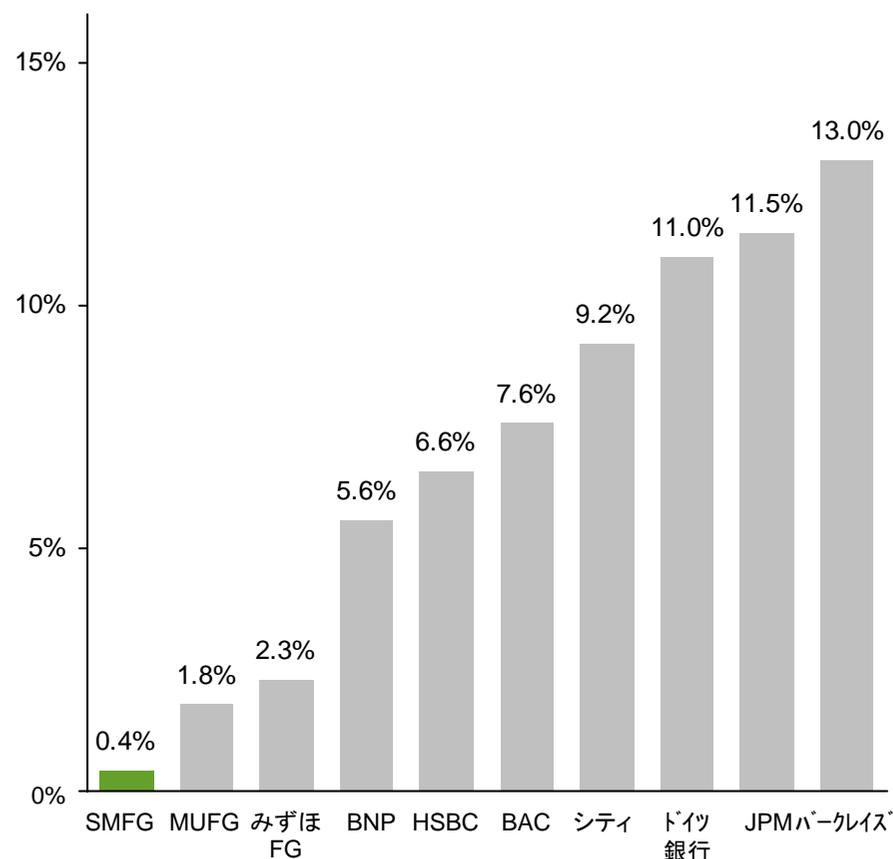
### 証券化商品等(09/9月末)

(億円) (グループ連結)



### リスクアセット総額に占めるマーケットリスクの割合\*4

(グループ連結)



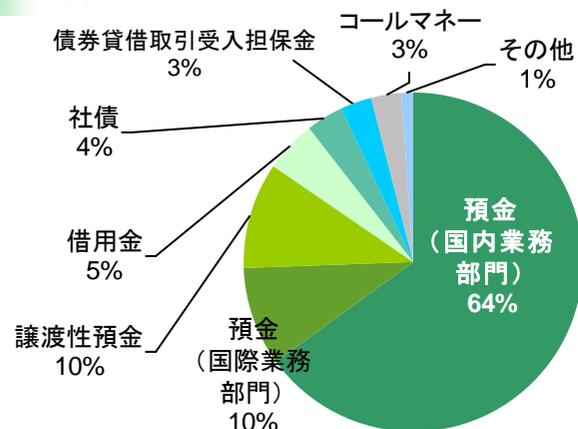
## 6-4. SMFGの強み: 安定的な預金基盤

商業銀行のもつ強固な顧客基盤を背景に、安定的な預金基盤を有しております。これにより、流動性リスクが削減されるだけでなく、金利上昇局面では収益寄与が期待されます。

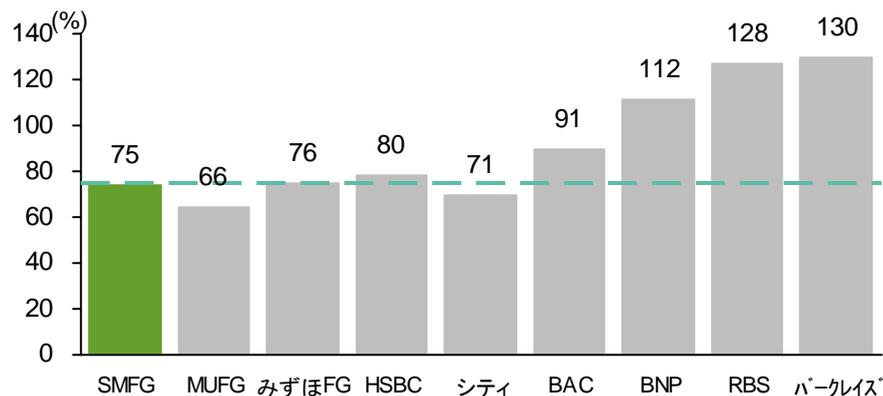
### 流動性

調達構造\*1

(SMBC単体)



預貸率\*2

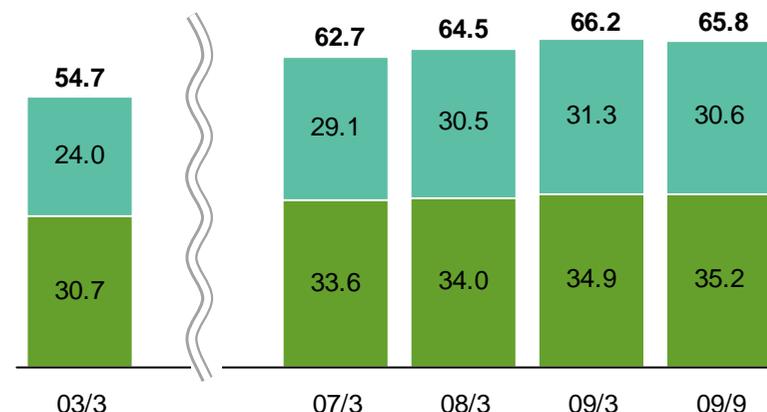


### 国内預金残高

(兆円)

■ 個人 ■ 法人等

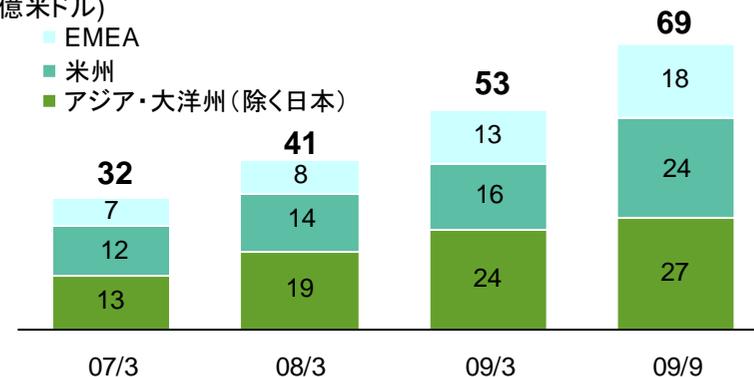
(SMBC単体)



### 海外預金残高\*3

(10億米ドル)

■ EMEA ■ 米州 ■ アジア・大洋州 (除く日本)



\*1 09年度中間期における資金調達勘定の平残

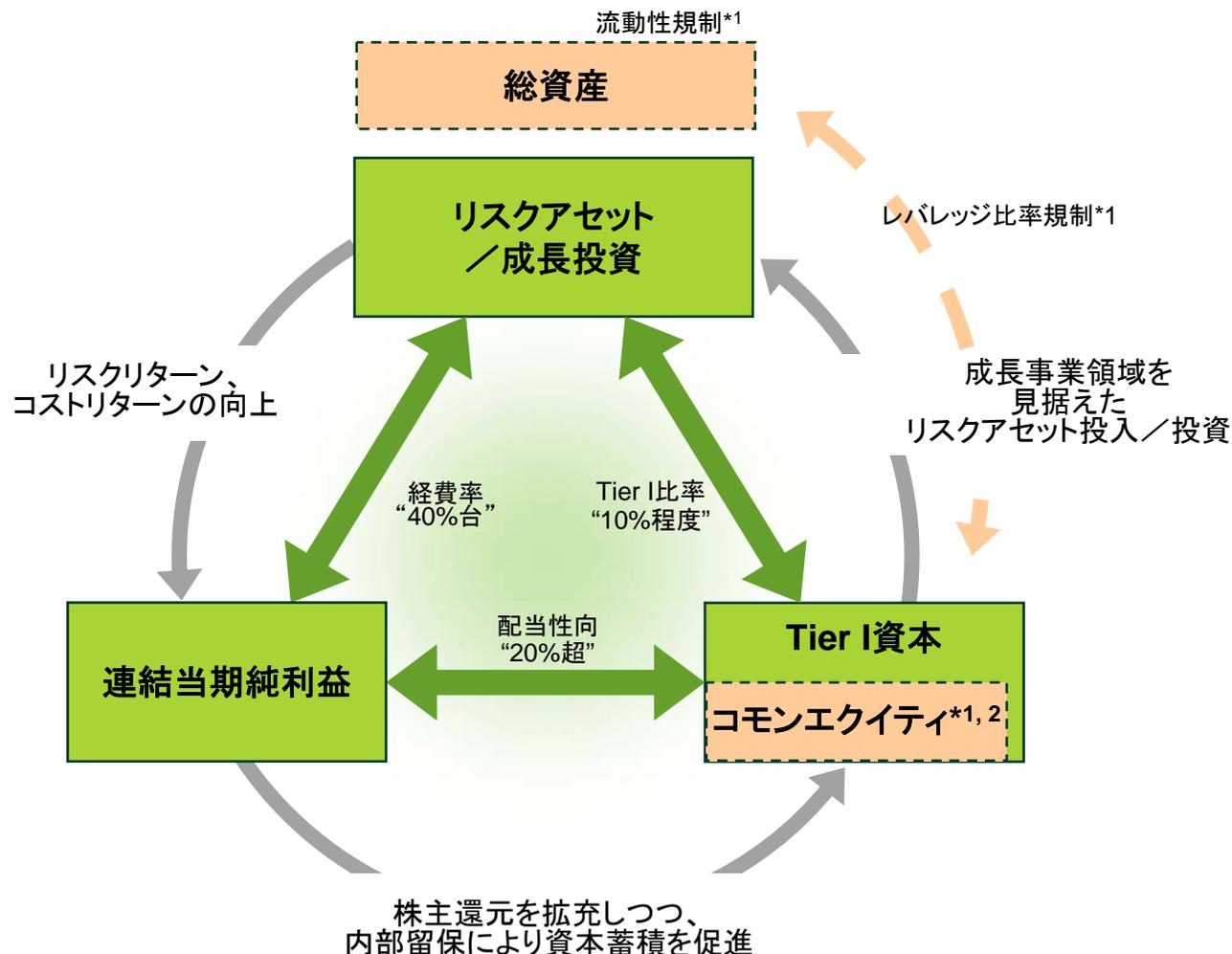
\*2 連結ベース。各社の公表資料に基づく。HSBCは09/6月末現在、RBSは09/9月末現在、それ以外は09/12月末現在

\*3 行内管理ベース。SMBC単体、欧州三井住友銀行、三井住友銀行(中国)の合計

## 終わりに

### - 持続的成長に向けた経営管理の考え方 -

収益・資本・リスクアセット／成長投資のバランスのよい成長サイクルの実現を通じて、  
当社の企業価値を持続的に向上してまいります。



# (参考資料1) 普通株増資の目的

## 資本調達

普通株増資	約8千億円 <sup>*2</sup>
-------	---------------------

## 資本配賦<sup>\*1</sup>

資本性証券買戻し(優先出資証券)	約2千億円
新たな規制・競争環境を見据えた資本増強	約4千億円
事業ポートフォリオ強化	約2千億円

自己捻出 (低採算資産圧縮等)	約5千億円
--------------------	-------

既存のビジネスの更なる強化 (国内投入、セディナ子会社化、等)	約7千億円
日興コーディアル証券	
アジア戦略強化	

\*1 普通株増資の具体的な資金使途とは別に、グループとしての自己資本の割り振りのイメージを記載したもの。  
\*2 増資発表時の見込額(払込金額の総額)

# (参考資料2) 預貸金利鞘

## 預貸金利鞘(財務ベース)

(兆円、%)

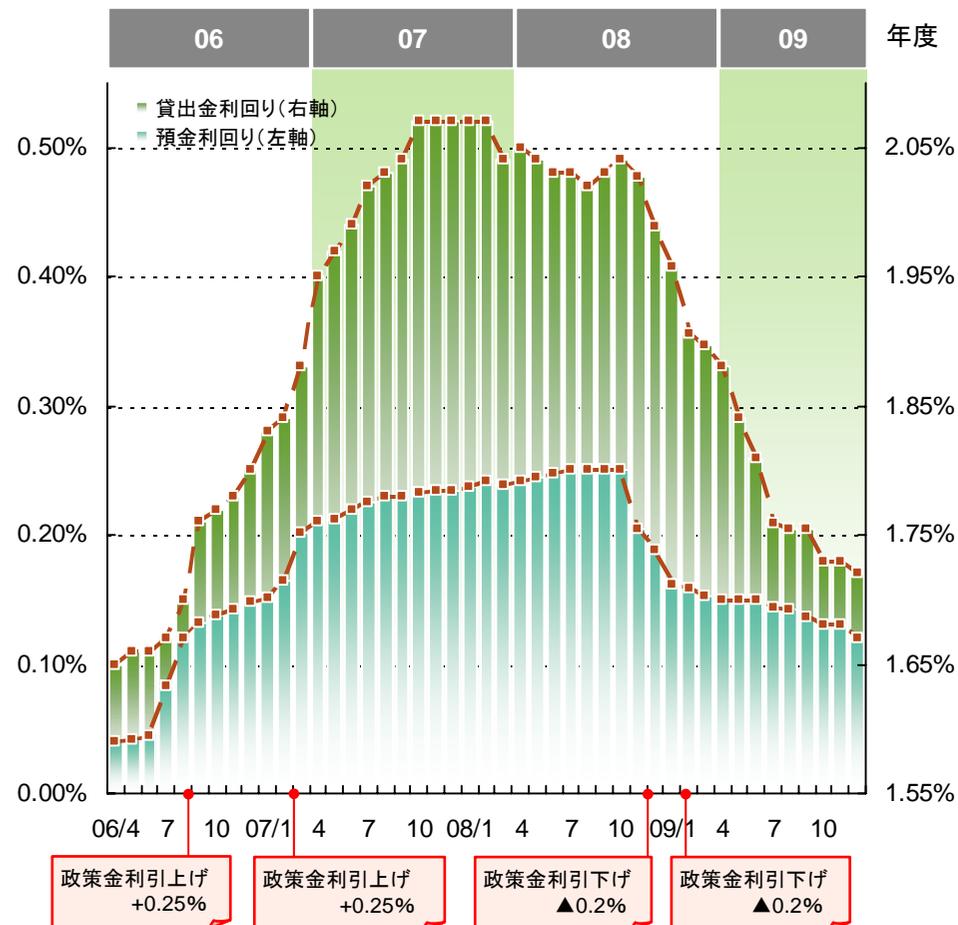
【国内業務部門】	09年度上期		前年同期比	
	平 残	利回り	平 残	利回り
貸出金* (a)	48.2	1.77	+2.2	▲0.24
預金等 (b)	67.2	0.15	+7.1	▲0.11
預貸金利鞘 (a) - (b)		1.62		▲0.13

【国際業務部門】	09年度上期		前年同期比	
	平 残	利回り	平 残	利回り
貸出金 (a)	9.5	2.21	▲0.6	▲1.80
預金等 (b)	10.3	0.54	+0.3	▲1.77
預貸金利鞘 (a) - (b)		1.67		▲0.03

\* 除く金融機関向け

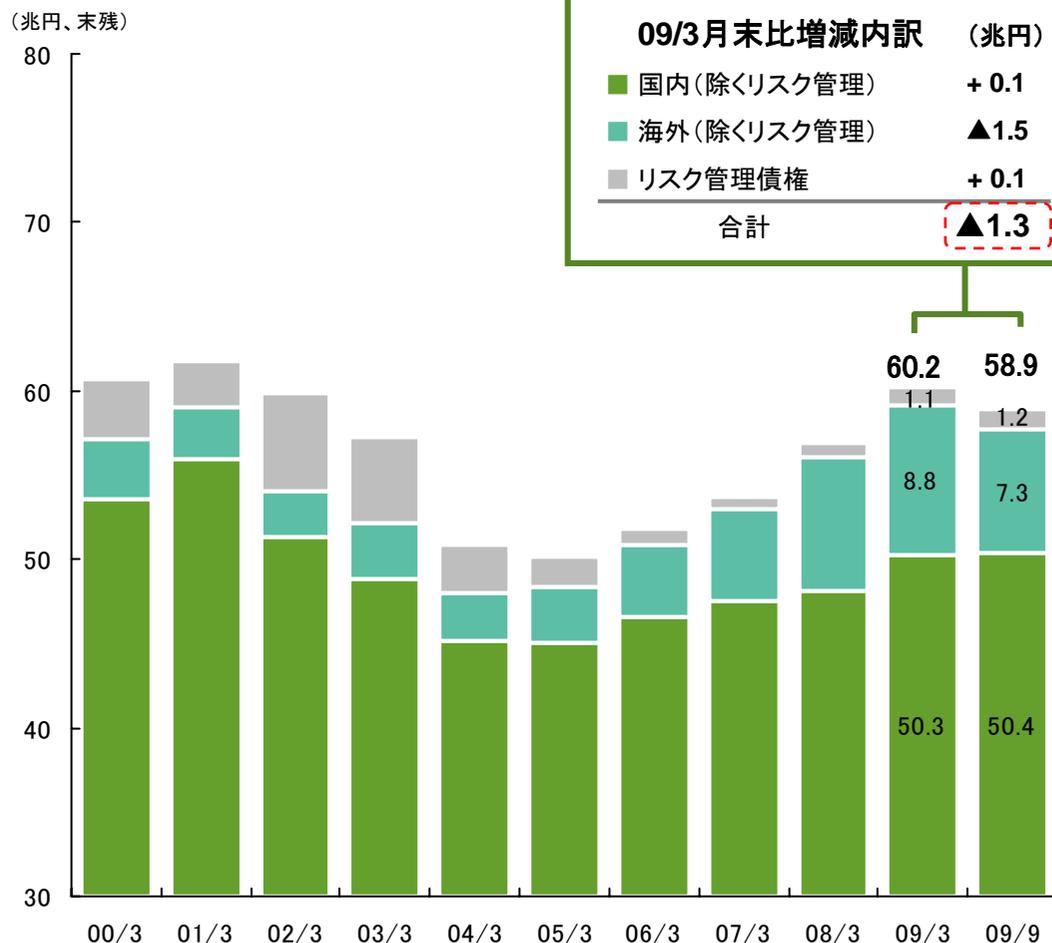
## 国内預貸金の利回り推移(管理ベース)



- 短期プライムレート: 1.375% → 1.625% (+0.250%, 2006/8/21 ~) → 1.875% (+0.250%, 2007/3/26 ~) → 1.675% (▲0.200%, 2008/11/17 ~) → 1.475% (▲0.200%, 2009/1/13 ~)
- 普通預金金利: 0.001% → 0.100% (+0.099%, 2006/7/18 ~) → 0.200% (+0.100%, 2007/2/26 ~) → 0.120% (▲0.080%, 2008/11/4 ~) → 0.040% (▲0.080%, 2008/12/22 ~)
- 定期預金金利(1年物、店頭): 0.150% → 0.300% (+0.150%, 2006/7/18 ~) → 0.400% (+0.100%, 2007/2/26 ~) → 0.300% (▲0.100%, 2008/11/12 ~) → 0.250% (▲0.050%, 2009/5/1 ~) → 0.200% (▲0.050%, 2009/7/13 ~) → 0.170% (▲0.030%, 2009/9/7 ~) → 0.140% (▲0.030%, 2009/11/9 ~)

# (参考資料3) 貸出金残高

## 貸出金残高の推移\*1



\*1 00年度以前は、旧さくら銀行・旧住友銀行の合算

## 国内業務部門別貸出金残高(管理ベース)

(兆円、未残)

	09/9月末	09/3月末比
個人部門	15.2	+ 0.2 <sup>*2</sup>
法人部門 <sup>*3</sup>	19.3	▲1.1
企業金融部門	12.2	▲0.0

\*2 住宅ローン証券化分の加算調整後(09年度上期実績約400億円)

\*3 国庫向け貸出を除く

## 海外地域別貸出金残高\*4(管理ベース)

(兆円、未残)

	09/9月末	09/3月末比
海外合計	8.7	▲ 1.3
米州	2.6	▲ 0.8
欧州	3.4	▲ 0.3
アジア	2.7	▲ 0.2

\*4 欧州三井住友銀行・三井住友銀行(中国)を含む

## (参考資料4) 部門別実績

		(億円)	08年度	09年度 上期	前年 同期比*1
個人部門	粗利益		4,294	1,925	▲59
	経費		▲2,907	▲1,444	△10
	業務純益		1,387	481	▲49
法人部門	粗利益		5,398	2,314	▲336
	経費		▲2,227	▲1,092	△14
	業務純益		3,171	1,222	▲322
企業金融部門	粗利益		1,967	972	+194
	経費		▲315	▲166	▲1
	業務純益		1,652	806	+193
国際部門	粗利益		1,750	842	+185
	経費		▲648	▲273	△20
	業務純益		1,102	569	+205
マーケティング部門	粗利益		13,409	6,053	▲16
	経費		▲6,097	▲2,975	△43
	業務純益		7,312	3,078	+27
市場営業部門	粗利益		2,468	1,670	+783
	経費		▲179	▲82	△5
	業務純益		2,289	1,588	+788
本社管理	粗利益		▲628	▲530	▲925
	経費		▲739	▲360	△101
	業務純益		▲1,367	▲890	▲824
合計	粗利益		15,249	7,193	▲158
	経費		▲7,015	▲3,417	△149
	業務純益		8,234	3,776	▲9

### プロダクト別粗利益(管理ベース)\*2

(億円)

ウチ 国内貸出金収益	2,611 (+ 27)
国内円預金収益	1,043 (▲ 5)
国際部門金利関連収益	504 (+168)
<b>金利収益</b>	<b>4,419 (+187)</b>
ウチ 投資信託	167 (+ 5)
個人年金	95 (▲ 2)
個人向けコンサルティング関連収益	274 (▲ 1)
ウチ シンジケーション関連	228 (+ 49)
ストラクチャードファイナンス*3	174 (▲ 29)
不動産ファイナンス*3	151 (+ 70)
投資銀行ビジネス関連収益*3	659 (+ 68)
ウチ デリバティブ販売	89 (▲142)
振込・EB	480 (▲ 7)
外為収益	198 (▲ 39)
国際部門非金利収益	338 (+ 17)
<b>非金利収益</b>	<b>1,634 (▲203)</b>
<b>マーケティング部門粗利益</b>	<b>6,053 (▲ 16)</b>

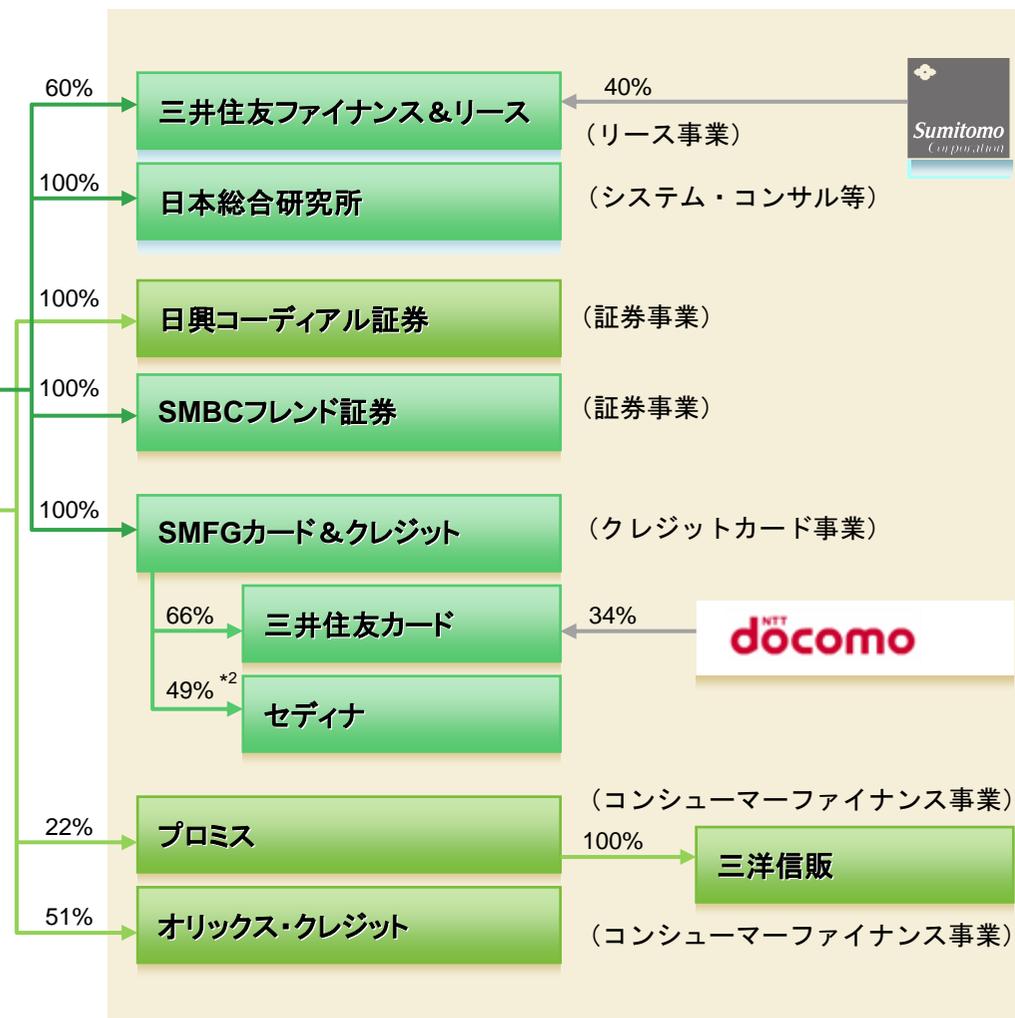
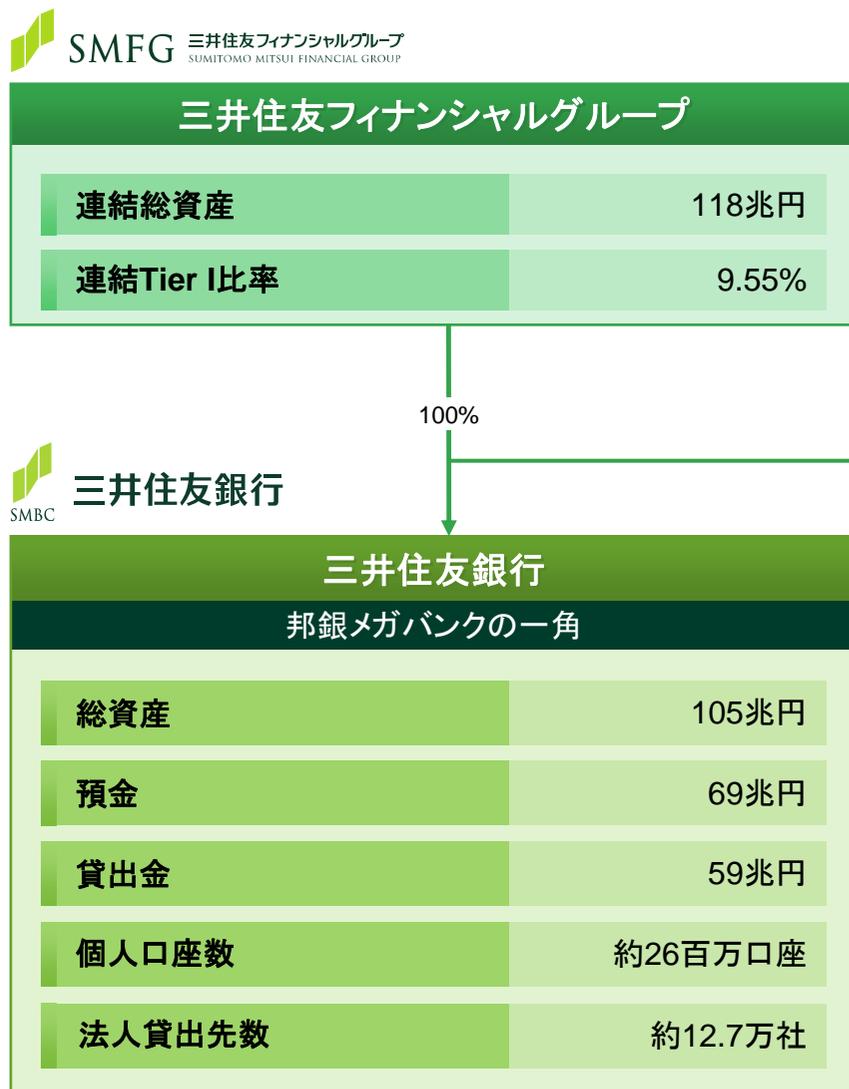
金利・為替影響等: ▲740億円

(表面ベース)  
前年  
同期比:  
▲756億円

### 期中平均貸出残高・スプレッド(管理ベース)

	平均残高		スプレッド	
	09年度 上期	前年 同期比	09年度 上期	前年 同期比
(兆円、%)				
国内貸出	51.1	+2.6	1.04	▲0.04
ウチ 個人部門	15.1	+0.4	1.49	▲0.04
ウチ 法人部門	19.5	▲1.0	1.19	▲0.02
ウチ 企業金融部門	12.1	+1.8	0.65	+0.09

# (参考資料5) SMFGのグループストラクチャー\*1



\*1 出資比率は09/12月末現在、それ以外の計数は09/9月末現在

\*2 グループ合算での議決権比率。10/5月に第三者割当増資により約68%に増加予定



本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、予想対比変化する可能性があることにご留意ください。